微笑みの勝者、亀井隆君が美しいゴルフで独走

「パットが入らない」と苦戦するなか、亀井君のみ3アンダー

取材／本條 強（KGA広報委員） 撮影／塚越克一（KGA広報副委員長）

阪田哲男の100勝成るか？大混戦の第2ラウンド

男体山が朝日を浴びて、赤く輝いている。秋晴れの中、関東シニアゴルフ選手権決勝の最終日が行われた。

900人にもおよぶ予選出場者から、決勝競技に進出した選手は144人（内決勝シード9名）。関東の名だたるベテランが、第1ラウンドから円熟味溢れるプレーを見せる。とはいえ、03年に日本オープンを開催した日光カンツリー倶楽部だけに、たやすくは攻略できない。

井上誠一氏の設計は東西にわずかな高低差をつけ、人手による造成だけに平坦に見えても微妙なアンジュレーションがある。しかも厳しい日光の冬に凍った大地は春解けの時期がことなるため、毎年フェアウェイの形が変わる。高い松や柳に行く手を阻まれることも多い。さらにグリーンは10フィート以上の高速に仕上げられている。

第1ラウンドを終えて首位に立ったのは、難コースを1アンダーであがった歌川康広と丹野富壽。パープレーが平本文明、新津淳、阪田哲男、江川健一。1オーバーに野口勇、井端和生、布施敬三、田村敏明、亀井隆、金井正善が控える。優勝はこの12人の中から、それも公式戦100勝を目指す、阪田哲男を中心に争われると予想された。

その第2ラウンド、阪田はハーフを手堅く1オーバーに収める。腕を傷めていると言うが、ドライバーの飛距離は申し分なく、アイアンは切れ味鋭く、パットが入ってくればバーディーが量産される雰囲気だ。

その阪田と並ぶのが江川と丹野。その阪田を1打上回るのが歌川。ところが、さらにその上を行く選手が現れた。亀井隆が33で回り、通算2アンダーと阪田に3打の差をつけたのだ。バックナインはその亀井を、阪田たち4人が追いかける展開となった。

日光CCはインコースも難ホールが連続する。11番から15番までは名手でもボギーを叩く。ここまでをいかにパーでしのげるかが勝負を決しそうだ。

阪田は前をまわる亀井を見ながらプレーを組み立てる。そんな亀井は後半開始早々の10番パー5で、ワンピンの距離を入れてバーディー。一方、阪田はティーショットを右の林に入れて出すだけだったが、170ヤードの第3打をしっかりとグリーンに乗せてパー。

続く11番パー4で亀井は右の林に入れるピンチを招くが、その林の隙間から転がして、グリーンに乗せてパーを拾う。阪田は会心のドライバーショットのあと、パンチショットでピンを刺してバーディーを奪うつもりが、ややフェースが被って、左サイドにグリーンオンでパー。大いに悔しがる。林に入れた亀井がボギーと見て、バーディーを奪って一気に1打差にする腹づもりだったに違いない。

215ヤードでホールロケーションが左奥という至難のセッティングの12番パー3で、3組も詰まる。待つ間に阪田が、前の組の選手に聞いた。

「11番で、亀井さんはいくつだった？」と。パーと聞いて「ほーっ」と息を吐いた。亀井が林に入れたのを後続組として目撃し、ボギーを叩くに違いないと思っていたのだ。この時、阪田はこの日の亀井に運があると見たか、実力があると見たかはともかく、いつもより激しくチャージしなければ追いつかないと感じたようだ。

難コースをただ一人亀井隆がアンダーパーでまわる

12番はお互いにパー。とはいえ、亀井は2メートルのパーパットを沈めてのパーだった。亀井にとって、このバックナインのスタート3ホールを、1アンダーとしたことが大きかった。このあとからリズムよくプレーできてくるからだ。

13番パー5はドライバーが会心の当たりで、270ヤードは飛んでいる。セカンドショットもグリーン手前50ヤードにしっかりと運んで楽々パー。14番パー4で

もの静かな覇者

亀井隆君は昨年の関東シニアで3位タイ。今年は8年ぶりで日本アマに出場したが、KGAやJGA主催競技での優勝は今回が初めて。プレー中も終始もの静かで、微笑を絶やさない。シニアらしい品格を感じるチャンピオンだ。

年齢を感じさせない若さは筋トレの効果か。

2位タイと健闘した3選手

阪田哲男君（上）は自己100勝記録の、2年越しの達成を懸けていた。丹野富壽君（中）と歌川康広君（下）は、第1ラウンドを首位タイで第2ラウンドへ。丹野君は昨年の日本シニアで15位タイ。事前の予想では「優勝は1オーバーか」（渡辺競技担当委員長）の圏内だったが、亀井君の第2ラウンド、4アンダーの前に揃って後塵を拝した。

快晴微風、朝日に輝く男体山は名画のよう。この静寂を破って、関東シニアの激戦がスタートする。

改装なった日光CCのクラブハウスから、コースへは流量のある小川を渡る。川は通称「油川」という。

Fairway Voices

日光カンツリー倶楽部

男体山からの順目よりも傾斜の錯覚がパットに影響？

根本英夫 グリーンキーパー

日頃から心掛けていることがあります。「日光の自然環境や厳しい気候条件を熟知したうえで、芝本来の生命力に任せる」こと。この夏は1週間も気温が34度を超え、秋の残暑も続きました。スプリンクラーでは間に合わず、朝の3時4時からホースで撒水。選手の皆様のパットを悩ませたのは、芝目よりも微妙な傾斜の影響では？

歓迎されないギャラリーが最終ラウンドの1番ホールに

最終ラウンドの10組目がスタートする頃、1番のフェアウェイを野生サルの群れが横切りました。その数ざっと20匹で、かなりのワルです。「森に潜んで姿は見えませんが、隙あれば窓や戸を開けて侵入し、エナジーバー（栄養補給食）を狙う嫌われ者です」（コース売店スタッフ）

勾配2%の急流、大谷川左の森が日光CC

かつては氾濫の度に日光CCに冠水被害をもたらした大谷川も、今は治水対策が万全。その上流を遡れば観光名所の神橋、華厳の滝、中禅寺湖へと至ります。早いスタートならラウンド後に、東照宮あたりをブラリ散策してはいかがですか。

浅草駅から東武特急『スペーシア』で、東武日光駅まで1時間46分。帰りは缶ビール片手にスコアカードを見て、納得か反省か……。

DATA 日光カンツリー倶楽部（6807Yards・Par72） 年齢55歳以上 JGAHDCP制限～13.9 10月10日の天気・晴れ・気温18.1度・風向南南西・風速0.8m/s